

北見工業大学学報

第 277 号 (2016 年 9 月号)

目 次

学位記授与式	平成 28 年度 9 月期学位記授与式を挙行……………	3
入 試	大学院入学試験を実施……………	4
	平成 29 年度編入学学生募集要項 (第 2 次募集) の公表……………	6
	平成 29 年度学生募集要項の公表……………	7
研 究 助 成	平成 28 年度共同研究の受入状況……………	9
	平成 28 年度奨学寄附金の受入状況……………	10
受 賞	本学職員が電気学会にて 平成 27 年電子・情報・システム部門誌論文奨励賞を受賞……………	11
	技術部 常田妃登美技術専門職員が優秀ポスター賞を受賞……………	12
諸 報	「オホーツク地域エネルギー環境教育研究会」の教育実践活動……………	13
	小中学校教諭対象の理科実験研修 「地質見学会～地層と化石を探る」を実施……………	14
	「おもしろ科学実験」を開催……………	15
	「大学で学ぶサイエンス」を実施……………	16
	高大連携協力に関する協定に基づく「遠軽高校講座」を実施……………	17
	イノベーション・ジャパン 2016 へ出展参加……………	18
	平成 28 年度北見工業大学技術部技術員研修を実施……………	19
	「科研費パワーアップセミナー」を開催……………	20
	研究費使用に関する意見交換会を開催……………	21
	北の逸品インフォメーションバザール in Tokyo 2016 へ出展……………	22
	平成 28 年度第 2 回技術セミナー (建設コンサルタンツ協会 CPD 認定プログラム) を開催……………	23
平成 28 年度第 1 回安全衛生講習会を実施……………	24	

	「第1回教育研究プロジェクト報告会」を開催……………	25
	道東3大学人材育成事業合同セミナーin弟子屈の開催・参加……………	26
	ロボットトライアスロン2016 総合優勝……………	27
	情報処理センター新演習室お披露目会を開催……………	28
	学生寮消防訓練を実施……………	29
目 誌	8月・9月……………	30

= 学位記授与式 =

平成 28 年度 9 月期学位記授与式を挙行

(総務課)

9月12日(月)午前10時から、平成28年度9月期学位記授与式が本学第2会議室で行われました。

授与式では、理事、副学長、事務局長、指導教員の他、修了生の関係者の方々が列席するなか、学部卒業生、大学院工学研究科博士前期課程・博士後期課程修了者及び

論文博士に対し、高橋信夫学長から学位記が授与され、「学位記を今後の人生の自信にしてください。これから先も実りある生活を送ることを祈念しております。」との言葉がありました。

また、式終了後には記念撮影を行うなど、喜びを分かち合う姿が見られました。



高橋学長(右)より学位記を授与される修了者



卒業生・修了者に祝辞を述べる高橋学長

= 入試 =

大学院入学試験を実施

(入 試 課)

8月22日(月)～24日(水)、平成28年度秋季及び平成29年度大学院入学試験(第1回)を実施しました。課程別専攻別の合格者数等は、下表のとおりです。

平成28年度(秋季)博士前期課程

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械工学専攻	若 干 人	0	0	0
社会環境工学専攻		1	1	1
電気電子工学専攻		0	0	0
情報システム工学専攻		0	0	0
バイオ環境化学専攻		0	0	0
マテリアル工学専攻		0	0	0
合 計		1	1	1

平成28年度(秋季)博士後期課程

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
生産基盤工学専攻	若 干 人	2	2	2
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻		4	4	4
医療工学専攻		3	3	3
合 計		9	9	9

平成 29 年度博士前期課程(第 1 回募集)

専攻名	入学定員	募集人員			志願者			受験者			合格者			
		一般入試	特別入試	計	一般入試	特別入試	計	一般入試	特別入試	計	一般入試	特別入試	計	
機械工学専攻	22	11	若 干 人	22	10	0	21	10	0	21	10	0	20	
		11				11			11			10		
社会環境工学専攻	20	10		20	13	1	22	13	1	22	13	1	22	
		10				8			8			8		
電気電子工学専攻	20	10		20	12	0	15	12	0	15	12	0	15	
		10				3			3			3		
情報システム工学専攻	16	8		16	10	1	17	10	1	16	10	1	16	
		8			6			5			5			
バイオ環境化学専攻	18	9	18	10	0	15	10	0	14	10	0	13		
		9			5			4			3			
マテリアル工学専攻	16	8	16	8	0	19	8	0	18	8	0	18		
		8			11			10			10			
合計	112	112			109			106			104			

※一般入試の上段は推薦入試、下段は学力試験入試

※特別入試は社会人特別入試、外国人留学生特別入試及び高等専門学校専攻科生特別入試の合計

平成 29 年度博士後期課程(第 1 回募集)

専攻名	募集人員	志願者	受験者	合格者
生産基盤工学専攻	3	0	0	0
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3	0	0	0
医療工学専攻	2	0	0	0
合計	8	0	0	0

平成 29 年度編入学学生募集要項（第 2 次募集）の公表

（入 試 課）

平成 29 年度編入学学生募集要項(第 2 次募集)が公表されました。概要は以下のとおりです。

学 科 及 び 募 集 人 員	工学部全学科 7 人
出 願 資 格	(1) 高等専門学校・理工系の短期大学を平成 29 年 3 月卒業見込みの者 (ただし、商船高等専門学校商船学科については、平成 29 年 9 月卒業見込みの者) (2) 学校教育法第 132 条に規定する専修学校の専門課程（修業年限が 2 年以上で、 かつ、課程の修了に必要な総授業時数が 1,700 時間以上であるものに限る。）を 平成 29 年 3 月修了見込みの者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。） (3) 学校教育法第 58 条第 2 項に規定する高等学校の専攻科の課程（修業年限が 2 年以上で、かつ、文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を平成 29 年 3 月修了見込みの者（学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。）
出 願 期 間	平成 28 年 10 月 19 日（水）～平成 28 年 10 月 25 日（火）
試 験 日	平成 28 年 11 月 15 日（火）
合 格 発 表	平成 28 年 12 月 14 日（水）

平成 29 年度学生募集要項の公表

(入 試 課)

平成 29 年度北見工業大学学生募集要項（一般入試・特別入試）が公表されました。募集要項の主な内容は以下のとおりです。募集要項の配布は入試課窓口で行っております。

募集人員

学科・コース名		入学定員	募集人員			
			前期日程	後期日程	推薦入試	帰国子女特別入試
地球環境工学科	エネルギー総合工学コース	190	76	66	48	各学科とも 若干人
	環境防災工学コース					
	先端材料物質工学コース					
	地域マネジメント工学コース					
地域未来デザイン工学科	機械知能・生体工学コース	220	88	77	55	
	情報デザイン・コミュニケーション工学コース					
	社会インフラ工学コース					
	バイオ食品工学コース					
	地域マネジメント工学コース					
工 学 部 合 計		410	164	143	103	

※ 入学後 2 年次前期までは学科で基礎教育等を学習し、2 年次後期から本人の志望及び学業成績により学科内のコースを選択します。

《注意事項》

- ① 後期日程の募集人員には、各系とも帰国子女特別入試の募集人員若干人を含みます。
- ② 推薦入試の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

一般入試	特別入試（推薦入試・帰国子女特別入試）
<p>1. 募集人員 別表のとおり</p> <p>2. 願書受付期間 平成 29 年 1 月 23 日（月）～2 月 1 日（水）</p> <p>3. 個別学力試験の期日 前期日程：課さない 後期日程：平成 29 年 3 月 12 日（日）</p> <p>4. 合格者の発表 前期日程：平成 29 年 3 月 6 日（月） 後期日程：平成 29 年 3 月 20 日（月）</p> <p>5. 入学手続期間 前期日程：平成 29 年 3 月 7 日（火）～3 月 15 日（水） 後期日程：平成 29 年 3 月 21 日（火）～3 月 27 日（月）</p> <p>6. 追加合格通知期間 当初の合格者で入学定員に満たない場合は、平成 29 年 3 月 28 日（火）から合格者の追加を行います。</p>	<p>1. 募集人員 別表のとおり</p> <p>2. 願書受付期間 平成 28 年 11 月 1 日（火）～11 月 7 日（月）</p> <p>3. 選抜試験の期日 平成 28 年 11 月 25 日（金） （志願者が多数の場合は 11 月 26 日（土）に及ぶ場合もあります。）</p> <p>4. 合格者の発表 平成 28 年 12 月 14 日（水）</p> <p>5. 入学手続期間 平成 29 年 1 月 16 日（月）～1 月 20 日（金）</p>

個別学力検査日時・会場

期 日	教 科	時 間	会 場
平成 29 年 3 月 12 日（日）	数学	9：30～11：30	北見工業大学、東京会場（タイム 24 ビル）又は大阪会場（大阪商業大学）
	理科	12：50～14：20	

= 研究助成 =

平成28年度共同研究の受入状況

(研究協力課)

平成28年9月30日現在

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
機械工学科	准教授	松村 昌典	住宅用24時間換気システムに関する研究	ケイ・マック株式会社北海道
マテリアル工学科	助教	古瀬 裕章	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	国立研究開発法人物質・材料研究機構
機械工学科	准教授	林田 和宏	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善－白煙、臭気に関する研究－	いすゞ自動車株式会社エンジン実験第一部
冬季スポーツ科学研究推進センター	センター長	鈴木 聡一郎	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	株式会社レクザム
冬季スポーツ科学研究推進センター	センター長	鈴木 聡一郎	スキーブーツのフットベッドの実用設計に関する研究	ブレイン株式会社
マテリアル工学科	教授	渡邊 眞次	香気成分、メントール濃度等ハッカの育種株評価分析方法の確立	株式会社北見ハッカ研究所
マテリアル工学科	教授	渡邊 眞次	ハッカからの香気成分新規抽出方法の開発	株式会社北見ハッカ研究所
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	温水循環式エアヒーターを用いたコンクリート給熱養生システムの構築	エクセン株式会社
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	河川における土砂の移動特性を考慮した河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所／愛知工業大学総合技術研究所
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	既存補強土壁の健全度評価に対する表面波探査の適用	北見土木技術協会
電気電子工学科	准教授	武山 眞弓	オホーツク特産品における「北見ブランド」の確立	北見市／企業組合北見産学医協働センター
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	寒冷地における繊維入りコンクリートの剥落防止性能に関する研究	三井住友建設株式会社北海道支店

平成28年度累計72件

平成28年度奨学寄附金の受入状況

(研究協力課)

平成28年9月30日現在

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額 円
社会環境工学科	准教授	中村 大	テラセルと排水補強パイプを併用したのり面対策工の凍上・凍結融解耐久性研究のため	岡三リビック株式会社	800,000
冬季スポーツ科学研究推進センター	センター長	鈴木 聡一郎	スキーブーツ設計に関わる工学研究のため	株式会社レクザム	100,000
社会環境工学科	准教授	中村 大	テラセルと排水補強パイプを併用したのり面対策工の凍上・凍結融解耐久性研究のため	千代田器材株式会社	1,200,000
冬季スポーツ科学研究推進センター	センター長	鈴木 聡一郎	スキーブーツに関わる工学研究のため	ブレイン株式会社	100,000
	学長	高橋 信夫	大学広報等への支援他	北見工業大学後援会	793,800
機械工学科	准教授	星野 洋平	ママチャリレース・ロボコン等の課外活動の参加支援	北見工業大学 機械工学科	150,000
バイオ環境化学科	特任助教	邱 泰瑛	発酵食品由来有用乳酸菌に関する教育研究の奨励助成	株式会社A O B 慧央グループ	500,000
	学長	高橋 信夫	教育研究のため	北見工業大学生生活協同組合	501,881
	学長	高橋 信夫	教育研究のため	株式会社アベックス北海道支社	166,274
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	テラセルと排水補強パイプを併用したのり面対策工の凍上・凍結融解耐久性研究のため	東京インキ株式会社 加工品営業本部	1,000,000
	学長	高橋 信夫	教育研究のため	株式会社伊藤園	639,561
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	工学研究のため (臭気要因特定に関する解析)	株式会社グリーンズ北見	1,000,000
社会環境工学科	助教	川尻 峻三	表面波探査による既設補強土壁の背面土調査	株式会社開発工営社	756,000
	学長	高橋 信夫	教育研究のため	北海道コカ・コーラボトリング株式会社	667,113
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	工学研究のため	株式会社北開水工コンサルタント	400,000

平成28年度累計38件

= 受賞 =

本学教員が電気学会にて 平成 27 年電子・情報・システム部門誌論文奨励賞を受賞

(電気電子工学科)

このたび、本学電気電子工学科の佐藤勝助教が平成 27 年度電気学会論文誌 C 部門（電子・情報・システム部門）誌にて論文奨励賞を受賞しました。本賞は、電気学会 C 部門誌に 1 年間に投稿された全論文（平成 27 年度には 378 編）の中から、特に優秀と思われる論文 5 件に贈呈される賞です。今回受賞された論文は、佐藤助教が所属する集積エレクトロニクス研究室の武山真弓准教授が研究代表者として富士通研究所と共同研究を行った成果の一つとして論文投稿されました。また、今回の受賞では共同研究先の研究員である小林靖志氏の論文も同時に論文奨励賞を受賞し、5 件の中に本学関係者の 2 件の論文が受賞されるという快挙となりました。

この研究は、従来切望されてきた低温プロセスでの絶縁膜の作製に関するもので、シリコン貫通ビア（Through Silicon Via: TSV）に適用可能な技術として注目を集めております。さらに、これまでの手法による絶縁膜の特性劣化の要因について定量的な評価を行った点も高い評価を得ました。

受賞された論文は以下の通りです。

「TSV プロセスに適用可能な反応性スパッタ法を用いた SiNx 膜の低温作製」佐藤勝、武山真弓、小林靖志、中田義弘、中村友二、野矢厚（Vol. 135, No. 7, 2015）

「3D/2.5D-IC TSV に向けた低温 SiNx の特性評価」小林靖志、中田義弘、中村友二、武山真弓、佐藤勝、野矢厚（Vol. 135, No. 7, 2015）



表彰式にて受賞を喜ぶ佐藤助教（左）と小林氏（右）

技術部 常田妃登美技術専門職員が優秀ポスター賞を受賞

(技術部)

このたび、技術部常田妃登美技術専門職員が、2016年度名古屋大学機器・分析技術研究会において優秀ポスター賞を受賞しました。

機器・分析技術研究会は、文部科学省所轄の大学共同利用機関法人、国立大学法人および独立行政法人国立高等専門学校機構に所属する技術系職員が技術研究発表、討論を通じて技術の研鑽、向上を図りさらには相互の交流と協力により技術の伝承をもふまえ、わが国の学術振興における技術支援に寄与することを目的として毎年全国各地の大学等において開催されています。

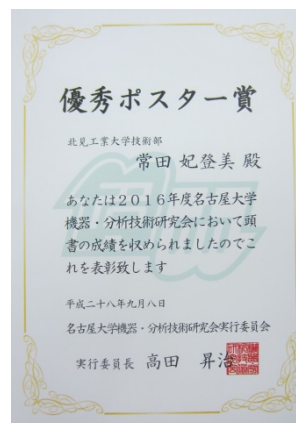
常田技術専門職員は宿院信博技術専門職

員とチームを組み、学内でのシステム開発およびフリーのソフトウェアを使用することにより費用を削減した、本学機器分析センターの機器利用システムを開発しました。このシステムにより、機器の管理と運用および機器の予約がWeb上で出来るようになり、機器の管理者および機器の利用者ともに利便性良く使えるシステムとなっております。

常田技術専門職員らの開発したシステム、およびその高いスキルが、本年度の機器・分析技術研究会において評価され、受賞に至りました。



発表したポスターと常田技術専門職員



優秀ポスター賞

＝ 諸報 ＝

「オホーツク地域エネルギー環境教育研究会」の教育実践活動

(社会連携推進機構)

本学が平成17年度から組織している「オホーツク地域エネルギー環境教育研究会(OE³)」では、今年もオホーツク地域からの要請に応じて、教育実践事業として支援活動を行っています。活動の一部を紹介します。

7月2日(土)、北見市立留辺蘂小学校において「おもしろ科学実験」を開催しました。科学のおもしろさを通じて児童及び保護者の親子ふれあいの場となりました。

7月17日(日)、恒例となる「紋別わくわく科学教室」が北海道立オホーツク流水科学センターにおいて開催され、本学からも複数のテーマを出展しました。オホーツク管内以外からも多数の参加者が来場していました。

8月20日(土)、遠軽東小学校「子どもも大人も楽しめる！屋台科学実験」に出展し、児童及び保護者ら150人ほどが参加する等、参加者同志の交流を深める良い機会になりました。

ました。

8月27日(土)、「おもしろ科学の祭典inびほろ」に出展し、人気の高い瞬間アイスには多くの参加者が列を作りました。

9月10日(土)、北見市教育委員会との連携事業の一環として、「科学であそぼう！実験教室」を北見市立中央小学校で開催しました。この事業は北見市が「土曜学校」事業として実施しているもので、この日は同学校の児童34人ほどが参加し、科学実験のおもしろさを満喫していました。

9月12日(月)、美幌町立東陽小学校において、5年生を対象に「新エネルギー教室」を開催しました。これは町のエネルギー政策の一環で昨年に引き続き依頼があったものです。

これらの活動は、学生の全面的な協力により実現しているものです。今後も地域のエネルギー環境教育のため、大学が一丸となって貢献していきたいと考えております。



「おもしろ科学の祭典inびほろ」の様子



「土曜学校」でスライム作りを体験

小中学校教諭対象の理科実験研修 「地質見学会～地層と化石を探る」を実施

(社会連携推進機構)

8月3日（水）、北見市教育委員会との連携事業に基づく取組みとして、小中学校教諭を対象とした理科実験研修「地質見学会～地層と化石を探る」を実施しました。

今回で4回目となるこの事業は、社会環境工学科の伊藤陽司准教授を講師として、北見市近郊の露頭において地層や岩石に関する解説や化石の採取等を行う予定でしたが、前半に予定していた場所はあいにくの雨天によりバスからの見学となりましたが、後半に予定していた場所は雨もあがりフィー

ルドを見学することができました。

当日は小中学校教諭12人が参加し、研修後のアンケートでは「身近な地層に触れることができよかった」「実際に地層を掘り出すことができ勉強になった」「また機会があれば参加したい」などの回答が寄せられました。

今後も、身近で体験できる理科実験研修を実施することにより、地域の理科教育の一助になればと考えています。



地層を探検している様子

「おもしろ科学実験」を開催

(社会連携推進機構)

8月6日(土)、小・中学生を対象に実験やものづくりを通じて子供たちの理科離れを防ぐとともに科学への興味を喚起することを目的とした「おもしろ科学実験」を開催しました。

今年で17回目となる「おもしろ科学実験」には、過去最多の延べ620人が参加し、24テーマの中から希望したテーマに真剣に取り組んでいました。

この日の北見市は気温30℃を超える暑さでしたが、参加した子供たちは元気に夏休みの一日を満喫していました。

また、担当する学生にとっては、教えることの難しさ、準備や工夫の大切さや安全への配慮などを学ぶ好機となりました。

今後も社会貢献の一環として、オホーツク地域のイベントとして定着しつつあるこの事業を継続していきたいと考えています。



紙飛行機から学ぶ飛行のしくみ



スライムを作ってみよう



ペットボトル風車で電気を作ろう！



原始人？ 火おこしに挑戦！！

「大学で学ぶサイエンス」を実施

(学務課)

8月7日(日)、8日(月)の2日間にわたり、「大学で学ぶサイエンス」を実施しました。

今回は、北見柏陽高等学校の生徒1名、北見緑陵高等学校の生徒4名及び遠軽高等学校の生徒8名の合計13名が、「クリーンエネルギーを学ぶ～自然エネルギーと燃料電池～」(講師：バイオ環境化学科岡崎文保准教授、電気電子工学科高橋理音准教授)というテーマで、体験学習を行いました。

1日目は、開講式の後、「地球環境問題

とエネルギー」の講義を受け、水力エネルギー利用技術の体験学習を行い、2日目は、「低炭素社会のエネルギー」の講義、燃料電池模型の体験実習の後、班毎に討議とレポート作成、レポート発表を行いました。

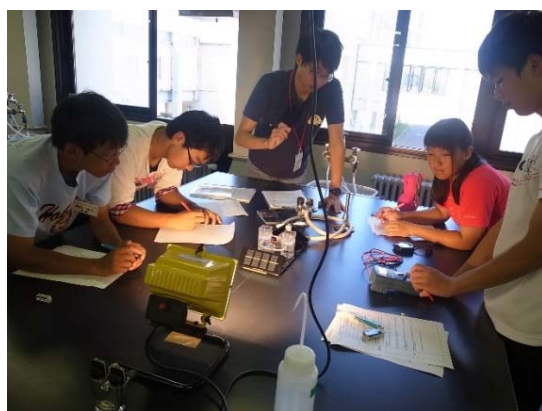
受講した高校生からは、「今回のエネルギーの話は、自分のこれからの使い方を考えさせられました」「自分たちで調べたことを発表するという体験ができたのですごくよかったです」等の感想が寄せられ、充実した2日間となった様子でした。



講義の様子



水力エネルギー実験



燃料電池実験



レポート発表

高大連携協力に関する協定に基づく「遠軽高校講座」を実施

(学 務 課)

8月25日(木)に本学と北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定に基づく「遠軽高校講座」を実施しました。この協定は、本学と北海道遠軽高等学校が連携することにより、高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材育成に資することを目的に平成25年度に締結したもので、本講座は今年度で4回目の開催となります。

当日は北海道遠軽高等学校の生徒8名が、「雪と氷の世界への招待」(講師：社会環境工学科亀田貴雄教授)というテーマで体験学習を行いました。

開講式の後、「雪と氷の神秘—氷の結晶

構造、雪結晶から南極氷床、流氷まで—」の講義を受け、昼食は教員・TAとともに学生食堂でとり、ひと足早い学生気分を味わいました。午後からは、雪結晶の生成実験を行った後、一人一人パワーポイントを使いレポートをまとめ発表を行いました。

参加した高校生からは、「構造などをあまり理解していなかった雪結晶について、理解を深められたのでよかった」「今年の冬は雪を観察しようと思う」等の感想が寄せられ、身近な雪について楽しみながら学ぶことができた1日となった様子でした。



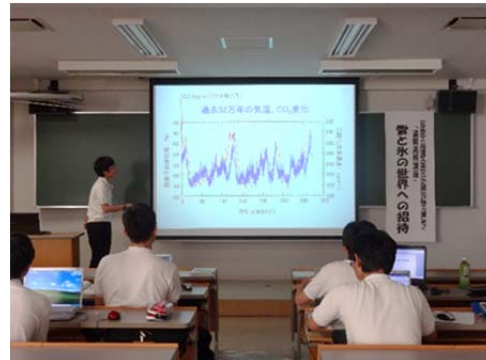
講義の様子



雪結晶の生成方法について学ぶ



雪結晶の生成実験



プレゼンテーション

イノベーション・ジャパン 2016 へ出展参加

(社会連携推進センター)

8月25日(木)、26日(金)の2日間、東京ビッグサイトで開催されたイノベーション・ジャパン2016に出展参加しました。本展示会は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が連携した、我が国の産学連携を強力に推進するための国内最大規模の産学マッチングイベントです。

13回目を迎えた今回は、500を超える大学とベンチャー企業等が参加し、その研究成果や開発技術の展示、プレゼンテーション及びセミナー等が行われました。200を超えるJST発の研究開発成果を紹介する「JSTフェア2016」も同時開催され、会場には各種メディアや産業界、官公庁などから2日間でおよそ2万人が訪れました。

本学からは、ライフサイエンスゾーンに機械工学科鈴木聡一郎教授が取り組む「競技で好成績を生むアスリート用スキーブー

ツおよび中敷部材の設計」、情報通信ゾーンに電気電子工学科武山眞弓准教授が取り組む「低温でも高機能なコーティング材料の開発」の2つの研究成果について出展を行いました。本学のブースには絶え間なく来場者が訪れ、研究者による説明に熱心に耳を傾ける姿が見られました。また、この2つの研究は5分間のショートプレゼンも行われ、より多くの来場者の関心を集めました。

本展示会は、出展する技術の背景となる社会状況や関連市場などの情報を得ることができる貴重な機会であることから、本学においても研究力向上につながる展示会として重視しています。イノベーション・ジャパンへの出展の実現には、厳しい審査をクリアする必要がありますが、本学のプレゼン向上に大きく寄与できる場でもあることから、今後も出展に向け挑戦していきます。



ブースにて説明を行う鈴木教授



プレゼンテーションを行う武山准教授

平成 28 年度北見工業大学技術部技術員研修を実施

(技術部)

8月26日(金)、平成28年度北見工業大学技術部技術員研修を、多目的講義室を会場に実施しました。

この研修は、技術員が職務を通じて習得した技術成果及び業務内容を発表し、技術的交流と相互の資質向上を図ることや、職務に関する必要な知識を広く習得することを目的として毎年実施しており、今年度は31名が受講しました。

研修は、山田貴延技術部長による開講の挨拶から始まり、山田技術部長による「寒冷地域の下水処理場におけるコジェネレーション」と題した講演が行われ、続いて大

津直史准教授による「自立した技術員への道ー分析技術者の育成とその意義ー」と題した講演が行われました。

午後は白川純子学生相談室カウンセラーによる「ストレスマネジメントと認知行動療法について」と題した講演が行われ、続いて技術員4名による日頃の業務内容・業務成果等についての「技術発表」、小畑芳弘技術部室長による先輩講話が行われました。

この研修を通して、普段の業務では学ぶことのない内容や他分野の技術員の知識・技術の一端を知ることができ、有意義な時間を持つことができました。



山田技術部長による開講の挨拶



大津准教授による講演



白川カウンセラーによる講演



研修の様子

「科研費パワーアップセミナー」を開催

(研究協力課)

9月1日(木)、第1総合研究棟2階多目的講義室において「科研費パワーアップセミナー」を開催しました。

セミナーでは、ロバスト・ジャパン株式会社代表取締役中安豪氏から「科研費の採択と活用につながる3つのアプローチ」と題した講演があり、審査をイメージした研究計画調書の作成方法、研究計画の自己点検

方法等、幅広い内容の講演に参加者は熱心に耳を傾けていました。また、講演終了後には、事務担当者から科研費申請に係る注意事項の説明を行いました。

今回のセミナーには、本学教職員を始め北海道内の釧路工業高等専門学校、釧路公立大学、日本赤十字北海道看護大学から60人以上の参加がありました。



講演する中安氏

研究費使用に関する意見交換会を開催

(研究協力課)

9月1日(木)、科研費パワーアップセミナー終了後に、教職員を対象とした「研究費使用に関する意見交換会」を開催し、教職員34人が参加しました。

この意見交換会は、本学の不正防止計画に則り、研究現場における研究費の使用について、教員と事務職員との意見交換を通じて問題意識の共有と相互理解の促進を図ることを目的に不正防止対策室が開催したものです。意見交換会では、これまでのアンケートや昨年度の意見交換会時に検討予定となっていた事項に対する対応状況の説明に続き、研究費使用に関する事務手続きにおいて日頃感じていること等、自由な意見交換が行われました。

教員からは旅費システムや物品請求システムの不便と感じる部分や、事務手続きについて改善を求める意見が複数あり、担当課で検討する旨の回答がありました。日頃、直接聞くことが少ない教員からの意見・要望は、事務局各課の業務改善の参考となりました。また、各課からシステムを使用した便利な航空券の手配や教職員個人に対する助成金等の税法上の取扱い等の説明がありました。

当日会場で配付された資料や意見交換の内容は、学内メールシステムのサイボウズ掲示板にも掲載され全教職員に周知されました。



不正防止対策室による説明



会場風景

北の逸品インフォメーションバザール in Tokyo 2016 へ出展

(社会連携推進センター)

9月1日(木)、2日(金)の2日間、池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル4階を会場に開催された北洋銀・帯広信用金庫主催の「北の逸品インフォメーションバザール in Tokyo 2016」に出展しました。本イベントは北海道の加工食品や農産物等を首都圏に紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路の拡大を目指す実践的な商談会で、商品開発にむけたニーズ収集、首都圏バイヤーとのネットワーク構築などを目的としています。また毎年、鹿児島銀行等が主催する「南の逸品商談会」との同時開催であることから、会場には北海道、鹿児島のほか、京都、山口、宮崎、沖縄からの出展もあり、今年は4,000人を超える来場者が訪れました。

本学は工学連携推進型地域6次産業人材育成事業の成果発表の場として参加し、受講生は今後の商品化へと繋がる情報を得るために、自らが開発した試作品(鹿肉ふりかけ、お酒に合うスイーツ、北見丸麦緑茶、

白花豆ラスク等)の試食アンケートを行いました。また、本事業の受講生でもある「農業法人有限会社香遊生活」、「株式会社北見ハッカ通商」も参加しました。さらには「株式会社東京農大バイオインダストリー」や、東京農業大学が本学と同様の地域再生人材育成事業を実施した際の受講生等が立ち上げた「NPO法人創成塾」、北見市、北見観光協会、商工会議所も応援団として参加し、産学官の連携で地域と地域商品のPRを行いました。

本イベントは、受講生にとって自らが開発した商品の販売ルートの開拓や販路の拡大を目指すだけでなく、新たな商品開発に向けた情報共有とネットワーク構築に向けての価値ある場となりました。本学が地域貢献や指導的立場で本イベントへ参加することは、今後のシーズ発掘や工農事業におけるマネジメントの観点からも、有効であると考えています。



開会式



ブースの様子

平成28年度第2回技術セミナー (建設コンサルタンツ協会 CPD 認定プログラム) を開催

(社会連携推進機構)

平成28年度第2回技術セミナー(建設コンサルタンツ協会CPD認定プログラム)を9月2日(金)に本学第1総合研究棟多目的講義室で開催しました。

本セミナーは、地域貢献活動の一環として、土木・建設関係技術者に最新の技術動向及び建設コンサルタントを取り巻く状況等についての理解を深めてもらうために平成23年から毎年実施している建設コンサルタンツ協会の認定講座です。受講者アンケートの要望に応え、5月の開催に続き、今年度2回目のセミナーを開催しました。

セミナーでは、「これからの社会資本整備を考えるⅡ」をテーマに本学社会環境工学科亀田貴雄教授、舘山一孝准教授、白川龍生准教授、株式会社福田水文センターの林克恭氏の4人の講師が講演しました。

セミナーには設計、測量、コンサルタント関係の技術者や北海道職員などオホーツク地域を中心に札幌や根室等からも80人を

越える事前申込みがありましたが、直前に北海道を直撃した台風による河川の氾濫や道路の土砂崩れ等の大規模災害が発生した影響で、対応に追われる関係者の欠席が多数あり、当日は60人が参加しました。

講演では、本学講師3人から地球規模で見た気象や雪に関する情報や新たな計測方法に関する内容の説明があり、林講師からは前日まで対応していた道内、道外の河川の氾濫と決壊した堤防の状況や対応について動画を交えた報告がありました。

参加者は講師の説明に熱心に耳を傾けるとともに、関係者にとって身近なテーマであったことから活発な質問をしておりました。参加者から得たアンケートでは、回答者全員が本セミナーを来年度も継続して開講することを希望しており、地域防災・減災に対する指導や技術の紹介、環境保全等、今後の講演内容についての希望が多数寄せられました。



川村副学長の開会挨拶



受講の様子

平成 28 年度第 1 回安全衛生講習会を実施

(施設課)

9月9日(金)、第1回安全衛生講習会を第2体育館にてアスリンク代表・前崎さやこ氏を講師にむかえ開催しました。当日は教職員約15名が参加しました。筋力、運動不足による姿勢不良、疲れ、コリの改善や適度に身体を動かすことによるストレス解消を目的として、ピラティスを行いました。

これらは、体力、男女や年齢に関係なく

楽しみながら行えるもので、90分間の講習の後は身体全体がリラックスできたとの声が聞かれました。

講習の参加者を対象としたアンケートには、「肩こり、腰痛等、体に改善効果が感じられた」、「自分の体を見直す良い機会となった」等の感想が寄せられました。



前崎氏による挨拶



体を動かす参加者

「第1回教育研究プロジェクト報告会」を開催

(研究推進機構)

9月9日(金)、本学多目的講義室において「第1回教育研究プロジェクト報告会」を開催し、教職員42人が参加しました。

本報告会は、平成27年度の教育研究プロジェクトの内容を教職員に報告することで、本学の強み、特色ある取組の方向性を知っていただき、教育研究活動の活性化と教職員の意識の向上を図り、本学の教育研究をさらに推進することを目的に今回初めて開催したものです。

報告会では、出張のためやむを得ず欠席した学長からのメッセージが紹介され、引き続き、「表層ガスハイドレートフィールド調査を活用した教育研究実習プログラム推進事業」(発表者：山下聡社会環境工学科教

授)、「寒冷地工学に基づく自然環境の保全に向けたプロジェクト型研究推進事業—知床、釧路湿原をフィールドとした物質循環機構の解明—」(発表者：駒井克昭社会環境工学科准教授)、「寒冷地域に最適化したスーパーハイブリット型省エネ環境保全植物工場」(発表者：吉田孝理事・副学長(総務担当))が、それぞれ発表を行いました。

各教育研究プロジェクトからは教育研究テーマや成果、今後の予定に加え、予算額や使用内訳等の詳細な説明がありました。

本学が重点的に推進している特色ある教育研究の報告に、参加者は熱心に耳を傾け、活発な質疑応答が行われました。



会場風景



発表する吉田理事

道東3大学人材育成事業合同セミナーin 弟子屈の開催・参加

(社会連携推進センター)

9月9日(金)・10日(日)の2日間、本学屈斜路研修所において、北見工業大学、帯広畜産大学、東京農業大学による道東3大学合同セミナーが開催されました。本セミナーは国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「地域再生人材創出拠点の形成」事業から続けている人材育成事業の一環として毎年開かれています。今年度は帯広畜産大学が主催となり、各大学から総勢20名が参加しました。本学からは「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業」の受講生2名(学生)、スタッフ1名、教員2名が参加しました。

セミナーでは、弟子屈町にある野村北海

道菜園株式会社の温泉熱を活用した野菜のハウス栽培施設を見学したあと、2つのグループに分かれてその施設を題材とした消費者目線で見ると課題の発掘とその解決についてディスカッションを行いました。会社の仕組みや市場、エネルギー、コストなどについて学ぶ貴重な機会であり、本学の学生もプレゼンテーションを行うなど、積極的に参加しました。

本セミナーは、大学・受講生間が交流を図り、社会の仕組みについて学ぶ効果的な場として重要な役割を担っています。今後も、3大学での情報交換やスタッフ・学生の交流など、継続的な活動を行います。



ハウス栽培施設の見学



受講生によるディスカッション

ロボットトライアスロン 2016 総合優勝

(機械工学科)

9月25日、ロボットトライアスロン2016が北海道科学大学で開催され、本学ロボコン部から6チーム、機械工学科生体メカトロニクス研究室から2チームの合計8チームが出場しました。Robot Triathlonは北海道内の大学生を対象としたロボットコンテストで、ロボットによるライントレース・スラローム・課題クリアのタイムトライアルを行う競技であり、今回は16回目の大会となります。

今大会には、本学、北海道大学、室蘭工業大学、札幌市立大学、北海道科学大学、北海学園大学、北海道職業能力開発大学校

の7つの大学から30チームが参加するなか、本学ロボコン部から参加した安藤宗嗣さん(情報システム工学科2年)と矢幡洸介さん(機械工学科2年)のチーム“void”が製作したロボット“crambot”がNormal部門で走行タイム1位・総合優勝の快挙を達成しました。また、生体メカトロニクス研究室の安藤恭平さん、中澤裕貴さん、廣嶋孝行さん、松本健吾さんによるチームメカトロが製作したロボット“カトリーナ”もアイデア賞を獲得しました。

いただきましたご支援に対しまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

☆ Robot Triathlon 2016 (<http://www.robot-triathlon.org/top.html>)



宿泊施設で大会直前まで続く苦闘



表彰式 (アイデア賞)



表彰式 (総合優勝)



大会終了後

情報処理センター新演習室お披露目会を開催

(学術情報機構)

情報処理センター演習室は、ICTキャンパス基盤システムの更新に合わせ、第一総合研究棟3階に移転します。10月の移転オープンに先立ち、高橋信夫学長をはじめとした執行部の方々を対象として、9月28日（水）にお披露目会を開催しました。

当日は升井洋志情報処理センター長から新演習室の概要についての説明の後、三浦克宜講師が授業のデモンストレーションを行いました。執行部の方々からはアクティ

ブラーニングへの活用等様々な質問が挙がり、演習室の今後の更なる活用に期待を抱かせる催しとなりました。

また、9月29日（木）、30日（金）には、教員を対象とした新演習室の利用説明会を開催しました。学術情報機構では、学生がよりよい環境で演習や自習を行うことができるよう、今後も設備等を整えていきたいと考えています。



挨拶する升井情報処理センター長



授業のデモンストレーションを行う三浦講師



お披露目会参加の執行部の方々



終了後に記念撮影

学生寮消防訓練を実施

(施設課)

9月30日(金)に北苑寮と北桜寮において消防訓練を実施しました。

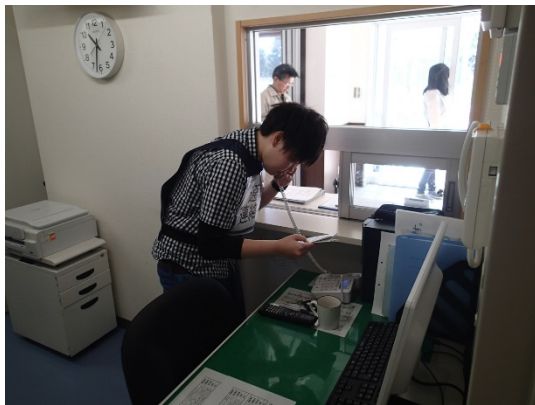
訓練当日は約50人の学生が参加しました。北桜寮の避難訓練から始まり、北苑寮避難訓練、消火器取扱訓練、屋内消火栓の取扱訓練を実施しました。

避難訓練は北苑寮、北桜寮どちらも寮内火災報知機の鳴動から始まり、寮生で組織された自衛消防隊は、消防への通報連絡や

寮生の避難誘導などの任務にあたりました。

避難訓練終了後は、消火器取扱訓練、屋内消火栓の取扱訓練を実施しました。消火器取扱訓練では、使用説明の後、本物の消火器の代わりに水消火器を使い、消火訓練を行いました。

今年度の防火訓練も寮生が真剣に取り組む様子が見受けられ、学生寮における防火訓練は終了しました。



消防へ通報する北桜寮生



寮内へアナウンスする北苑寮生



消火器の取扱訓練



屋内消火栓の取扱訓練

= 日誌 =

8 月

- 1日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 2日 教務委員会
- 3日 障がい学生支援室会議
- 4日 学生委員会、入試企画センター運営会議
- 5日 推薦入学者選抜実施委員会
- 6日 おもしろ科学実験
- 7日 大学で学ぶサイエンス（～8日）
- 8日 発明審査委員会、社会連携推進センター運営会議、教員免許状更新講習（～12日）
- 17日 スーパー連携大学院プログラム「現役社長の講話IV」（～19日）
- 19日 全国国立工業大学柔剣道大会（～20日）
- 22日 平成28年度秋季・平成29年度大学院工学研究科博士前期課程入学試験（～23日）
- 24日 平成28年度秋季・平成29年度大学院工学研究科博士後期課程入学試験
- 25日 遠軽高校講座、イノベーション・ジャパン2016-大学見本市-（～26日）
- 30日 教務委員会

9 月

- 1日 科研費パワーアップセミナー・研究費使用に関する意見交換会、インフォメーションバザールin Tokyo 2016（～2日）
- 2日 技術セミナー（CPD認定プログラム）
- 5日 入学者選抜委員会、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 6日 学術情報機構統括会議
- 7日 教授会、研究科委員会、平成28年度秋季・平成29年度大学院入学試験合格発表
- 8日 社会連携推進センター運営会議、公開講座（～15日）、平成28年度秋季大学院入学手続（～15日）
- 9日 安全衛生講習会、教育研究プロジェクト報告会、道東3大学合同セミナー in 弟子屈（～10日）
- 12日 学位記授与式
- 14日 教育研究評議会
- 15日 経営協議会、学長選考会議、役員会、国立大学法人共同研究センター等教員会議（～16日）
- 16日 教務委員会
- 29日 TAのFD研修、国立大学法人共同研究センター長等会議（～30日）
- 30日 学生寮消防訓練、就職ガイダンス・SPI模擬試験